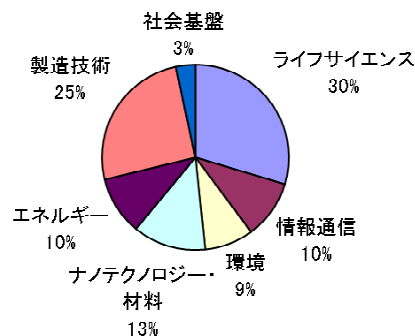


10. 地域イノベーション創出研究開発事業の採択実績(平成20年度)

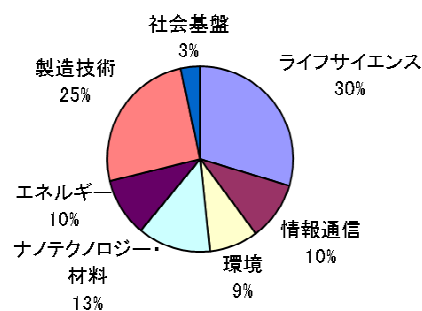
技術分野別比率(合計118件)

申請件数	356(件)
採択件数	118(件)
倍率	3.0(倍)
他府省事業関連	21件

他府省事業関連とは、知的クラスター創生事業等、他府省の研究開発施策で最近行われた研究開発から生まれた優れた技術シーズを活用することをいう。



(参考)提案案件の技術分野別比率(合計356件)



10

11. 大学発事業創出実用化研究開発事業の概要(21年度予算額21.0億円(20年度予算額17.5億円))

【目的】

- 大学等の優れた先端技術シーズを民間企業との産学連携により実用化・事業化に効果的に結実させることを通じて、我が国技術水準の向上とともに、イノベーションの促進を図る。

【概要】

- イノベーションの創出に資する先端技術の実用化開発に対する助成支援。
- 採択審査の際に、成果が戦略的に経営で活用されること(知的資産経営)に関する自己評価を実施させる仕組みを導入。

【対象】

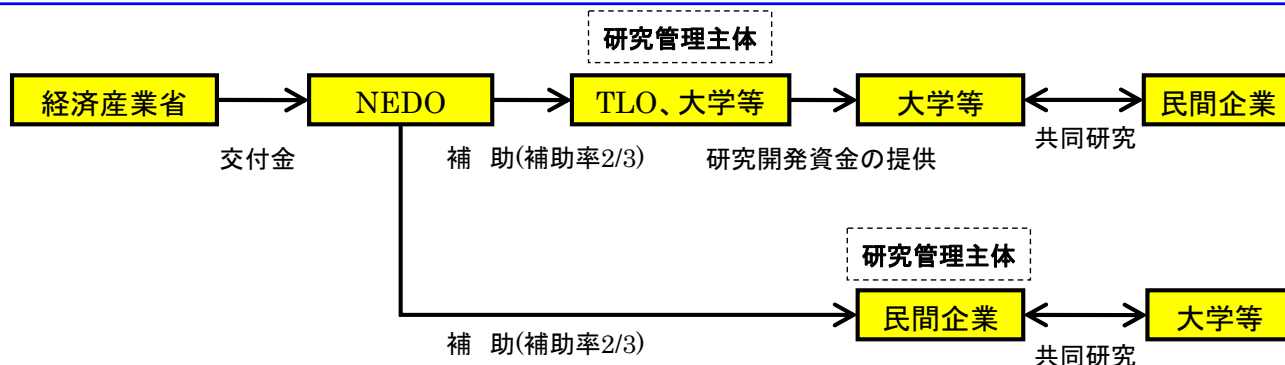
- 科学技術基本計画における重点4分野(ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテク・材料)等の技術課題で、事業終了後3年以内に事業化できるもの。

【補助額】

1件:1,000万円以上～1億円程度/年(補助率2/3)

【事業期間】

3年間以内



11

12. 大学発事業創出実用化研究開発事業の実績

- ★平成15年度予算での新規採択件数:13件(9組織)
- ★平成16年度予算での新規採択件数:29件(20組織)
- ★平成17年度予算での新規採択件数:70件(36組織)
- ★平成18年度予算での新規採択件数:40件(26組織)
- ★平成19年度予算での新規採択件数:25件(17組織)
- ★平成20年度予算での新規採択件数:19件(19組織)

大学発事業創出実用化研究開発事業の倍率の推移

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
倍率(①/②)	3.0倍	4.8倍	2.5倍	2.7倍	3.8倍	8.1倍
申請件数①	39件	134件	173件	109件	96件	153件
採択件数②	13件	29件	70件	40件	25件	19件

12

13. 大学発事業創出実用化研究開発事業の採択案件の実例①

研究開発テーマ:高感度温度感受性マイクロミセルによる温度履歴センサーの開発
補助事業者:農工大ティー・エル・オー株式会社

【研究開発内容】

食品の安全に対する社会的な関心が高まるなか、保管中や輸送中の温度管理は多くの企業の関心事となっており、特に一定の温度を超えずに管理することは極めて重要である。当該研究開発では、水と油のように本来混じり合わない2つの物質を安定的に混濁させた分散系溶液の応用により、保管中・輸送中の物品の温度変化が所定の範囲内であったか否かを判別するシステムである温度履歴インジケータの開発に取り組んだ。

【大学等との関係】

東京農工大学千葉一裕教授の研究成果を活用

【事業化する製品・サービス等の概要】

事業化する製品は、3cm角程度の透明なパックで厚さは1mm程度。対象物に貼って、一定時間冷却された対象物を輸送や保管した後の色の変化で温度上昇があったか否かが確認できる。

【売上見通し】

すでに飲食店、病院食、セントラルキッチン等の外食産業向けに規定温度が11℃の製品を発売。今後は、冷凍温度帯(0℃前後)やチルド温度帯(5℃前後)に規定温度を設定した商品を展開予定であり、年3億円程度の売上げを目指す。

【本事業による開発の成果及びメリット】

これまで温度履歴を確認できる手段は存在したが、専門の計測器を使うために一定の知識が必要であることに加え、高コストなため普及は限定的だったが、本事業で開発された温度履歴インジケータの単価は30円以下と非常に安価であり、製品や段ボール箱1つ1つに貼付して利用することができる。

温度履歴インジケータの実物写真



温度が所定の値を超えると内容物が凝固し、凝固した内容物は温度が低下しても元には戻らないため、温度上昇履歴の有無を容易に確認することができる。

13